

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成19年11月28日)

事業コード	H19-建-終-12		区 分	国庫補助 県単独
事業名	総合流域防災事業		部 局 課 室 名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災班 (tel)2514
路線名等	一級河川 熊沢川		担 当 課 長 名	河川砂防課長 萩野 敏明
箇所名	鹿角市八幡平		担 当 者 名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	熊沢川は、鹿角市八幡平地区を流下する米代川左支川である。改修以前の河道は、狭小かつ急勾配を呈する原始河川であったことから、浸水による被害や周辺施設の損壊がたびたび発生し、地域住民の生活を脅かしていた。このような状況下、熊沢川(上流)改修事業は、治水機能向上による民生の安定を目的として、昭和56年に小規模河川改修事業として国の事業認可を受け、谷内橋～根瀬橋までの区間(L=2.84km)について実施されたものである。					
事業期間	終了 昭和56年～平成17年	総事業費	前回 24.0億円	国庫補助率	50%	
	終了 昭和56年～平成17年		終了 24.0億円			
事業規模	前回 計画高水流量:780m3/sec(1/50) 延長L=2,840m					
	終了 計画高水流量:780m3/sec(1/50) 延長L=2,840m					
事業効果の要因変化及び発現状況	前回評価計画		最終	増減 -	理由	
	事業費		2,400,000	2,400,000	0	
	経内費	工事	1,887,000	1,887,000	0	
		用補	330,000	330,000	0	
		その他	183,000	183,000	0	
	事業内容		築堤4,756m、樋管6基、橋梁2基	築堤4,756m、樋管6基、橋梁2基		
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)			
	最終コスト 終了C / 前回評価C = (1.00)		【便益】 被害想定範囲内の資産等に変化がないことから、前回評価と同額となります。			
	費用便益 前回評価B / C = (1.85)		【費用】 H15評価時よりH17完成時まで変更はありません。			
	終了B / C = (1.85)					
目標達成率	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率 = 整備延長 / 要整備延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 (無)	
	目標値a	44.7%	データ等の出典	県 河川砂防課調べ		
	実績値b	44.6%				
	達成率 b / a	99.8%	把握の時期	H19年 3月		
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む					
自然環境の変化	河川改修により、現況の自然環境が変化することがないように、護岸に多孔質材料であるかごマットの使用や魚等の上下流の往来を妨げないようなプール式の魚道を採用し、熊沢川の水環境に配慮することが出来ている。					
社会経済情勢の変化	今年度の豪雨により、県内各地において甚大な被害が発生しており、安全・安心の観点から河川改修は急務である。					
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	河川管理者として県が管理を行っているが、アンケートでは草刈り・伐木等の徹底について意見が多く出されている。また、河川の利用については水質・水量も含めて、利用しやすくしてもらいたいとの意見も出されている。今後は、川に対するニーズの変化に対応した計画づくりや事業手法が必要であると考えられる。					

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 <u>受益者</u> 一般県民 (時期: 平成18年 9月) 満足度把握の方法 <u>アンケート調査</u> 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に) 満足度の状況 当事業に対するアンケートの総合評価として、過半数の被験者から「良い」「満足している」もしくは「ほぼ満足している」とする回答が得られた。 特に本事業の主な目的である治水に対しては、70%近い被験者から「良い」との評価が得られた一方、「悪い」との評価は5%程度にすぎず、住民満足度は高い水準にあるといえる。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画の中で、災害に強い県土づくりと危機管理体制を実現させるための施策に河川改修が位置づけられている。
関連プロジェクト等	第5次鹿角市総合計画の中に位置づけられている。
前回評価結果等	<u>選定または継続</u> 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項 なし 指摘事項への対応 なし

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 (A) 2点) B(1点) C(0点) 総合評価として過半数の住民が、本事業を肯定的に評価している。特に、事業の主な目的である治水に対する満足度は高かった。	(A) 4点)
	事業の効果 (A) 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 (2点) (1点) (0点)	B(1~3点) C(0点)
	事業の完了により、計画された流量の疎通能力が確保された。	
効率性	事業の経済性の妥当性 (A) B C	(A) 2点)
	費用便益費は1.0を上回っており、妥当であるといえる。	B(1点)
	コスト縮減の状況(B/Cの算出が出来ない場合のみ評価する。) A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	C(0点)
総合評価	(A) (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) 事業の効果は発現しており、事業の妥当性は高いといえる。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業実施前の設計及び調査段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。

4. 公共事業評価専門委員会意見

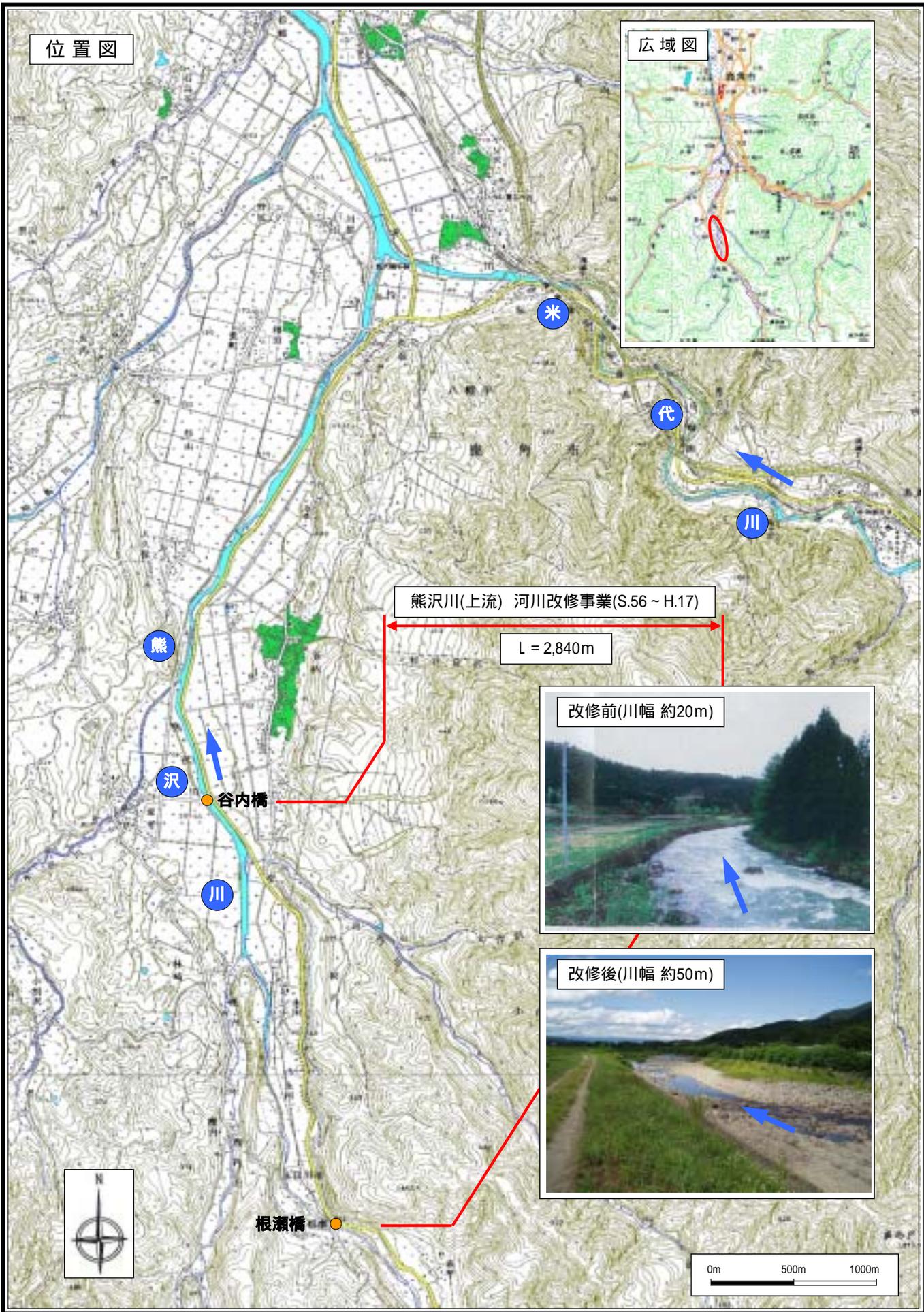
県の対応方針を「可」とする。

総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	

位置図

広域図



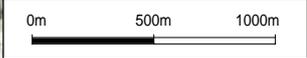
熊沢川(上流) 河川改修事業(S.56 ~ H.17)

L = 2,840m

改修前(川幅 約20m)



改修後(川幅 約50m)



河川改修に対する満足度

治水

- ・整備後の治水に関する満足度は全項目中最も高く、「満足している」, または「ほぼ満足している」との回答がおよそ7割を占めた。
- ・事業の最大目標である治水について、目標は達成できたと評価できる。

自然環境

- ・「満足している」13.7%, 「ほぼ満足している」40.4%に対し、「不満である」, 「やや不満である」の小計は10.3%であった。

景観

- ・「満足している」13.0%, 「ほぼ満足している」37.0%に対し、「不満である」, 「やや不満である」の小計は16.4%であった。

水質

- ・「満足している」11.6%, 「ほぼ満足している」39.0%に対し、「不満である」, 「やや不満である」の小計は15.0%であった。

親水

- ・「満足している」6.2%, 「ほぼ満足している」36.3%に対し、「不満である」, 「やや不満である」の小計は13.0%であった。

管理

- ・最も満足度が低く、「満足している」, 「ほぼ満足している」の小計は28.1%にとどまった。

総合評価

- ・過半数より肯定的な評価が得られた。

(内 訳)

- ・「満足している」, 「やや満足している」..... 52.1%
- ・「不満である」, 「やや不満である」..... 10.2%

【グラフ 満足度一覧】

